

- 調査対象 全国の20～69歳の男女
- 調査方法 インターネット調査
- 有効回答数 667人
- 調査時期 2021年12月24日～2022年1月4日

2022年は「テレワークを増やしたい」 31.8%

コロナ禍をきっかけとした多様な働き方の形態は2022年以降も続くのか、それともコロナ終息後は以前の形態に戻るのか。これからの働き方について、就業者の意識をみてみよう。

- テレワークを増やしたい …………… **31.8%**
- 出勤頻度を減らしたい …………… **26.5%**
- テレワーク必須 …………… **18.1%**

2022年にどんな働き方を希望するかについて尋ねたところ、「テレワークを増やしたい」が31.8%でもっとも多く、「出勤頻度を減らしたい」26.5%、「テレワーク必須が良い」が18.1%で続いている。

回答者の業種や業態、就業環境などにより働き方の形態はさまざまだが、本調査ではテレワークを始めとする出勤頻度の少ない働き方を望む人が相対的に多くなっている。

- 2021年の働き方は「満足」 …………… **58.9%**

本調査を実施したライボ社が、2021年7月にテレワークの実施状況について調査したところ、回答者の76.7%の人がテレワーク業務を経験している。

その2021年の働き方に対する満足度については、全体で58.9%

(「大変満足」20.8%、「やや満足」38.1%)が満足と回答している。満足度を年代別にみると、20代から30代が60%を超えているのに対し、40代以降は満足度が低くなっている。

就業経験年数が相対的に短い20～30代と、コロナ禍以前の働き方が身体に染みついている40

代以降の世代で、テレワークなど新しい働き方に対する満足度の違いは明らかに違うようだ。

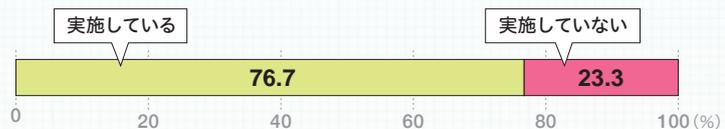
本調査の結果にみるように、テレワークを中心とした出勤頻度が少ない働き方が、数年後は“標準化”する可能性が見えてきた。

(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) 

2022年どんな働き方を希望する? (N=667) ※複数回答



2021年7月実施調査：テレワークの実施状況 (N=780)



2021年の働き方満足度 (N=667) ※「大変満足」「やや満足」の合計値

